

## 連携を深め、学校改善に生きる学校評価に向けて

京都市立醒泉小学校  
学校評価委員会

### 1. 学校評価の目的

学校評価は、学校が教育目標とそれに基づく教育活動その他の学校運営について目指すべき成果や目標の達成状況について評価（自己評価）し、その客観性を高めるために外部評価（保護者・地域・学校評議員）や児童による評価を実施し、それらの結果の公表を行うことにより、保護者・地域の理解と協力のもと連携して、本校の教育活動についての内容充実・改善を図り、よりよい学校づくりを目指すために実施している。

- \* **学校改善**：学校教育目標の実現を目指し、日常的、継続的に教育活動を充実させ、よりよいものにしていく取組
  - 「自己評価」と「外部評価」の相互作用の中で教育活動の充実を図っていく。
  - 学校評価を組織的・継続的に行うため「年間評価計画」を作成し実践していく。
- \* **「自己評価」**：「学校教育目標」の実現を目指し、児童・生徒の姿に現れた具体的成果・課題をもとに、本校の取組について点検・見直しを行うために実施している。
- \* **「外部評価」・「児童による評価」**：学校が行った「自己評価」に客観性を持たせるとともに、外部の評価者〔保護者・地域の方など〕の本校教育活動に対する関心を高め、同時に熱意と責任ある「評価」により、それぞれの果たすべき役割を再認識し、双方向に連携するために実施している。
- \* **「評価者の振り返り」**：学校が家庭・地域から一方的に評価されるのではなく、評価者自らが高まるとともに「学校評価」の営みを通して、学校・家庭・地域がそれぞれのあり方を振り返り、相互に高めあうために、振り返り評価項目を入れる。

### 2. P-D-C-A サイクルに基づいた学校評価システム

学校の教育活動は、学校が自らの責任のもとに、主体性をもって意図的・計画的に行うものである。これまでも、教育活動の充実をめざして自ら評価・反省等を行ってきたが、地域に開かれ、信頼される学校づくりが求められる中、学校改善を図り説明責任を果たす為には、次のようなサイクルが必要であり、機能していくことが大切であると思われる。

ア 成果や課題を基に、目標と具体的方策を設定する。(Plan)

イ 計画に基づき、具体的方策を実施する。(Do)

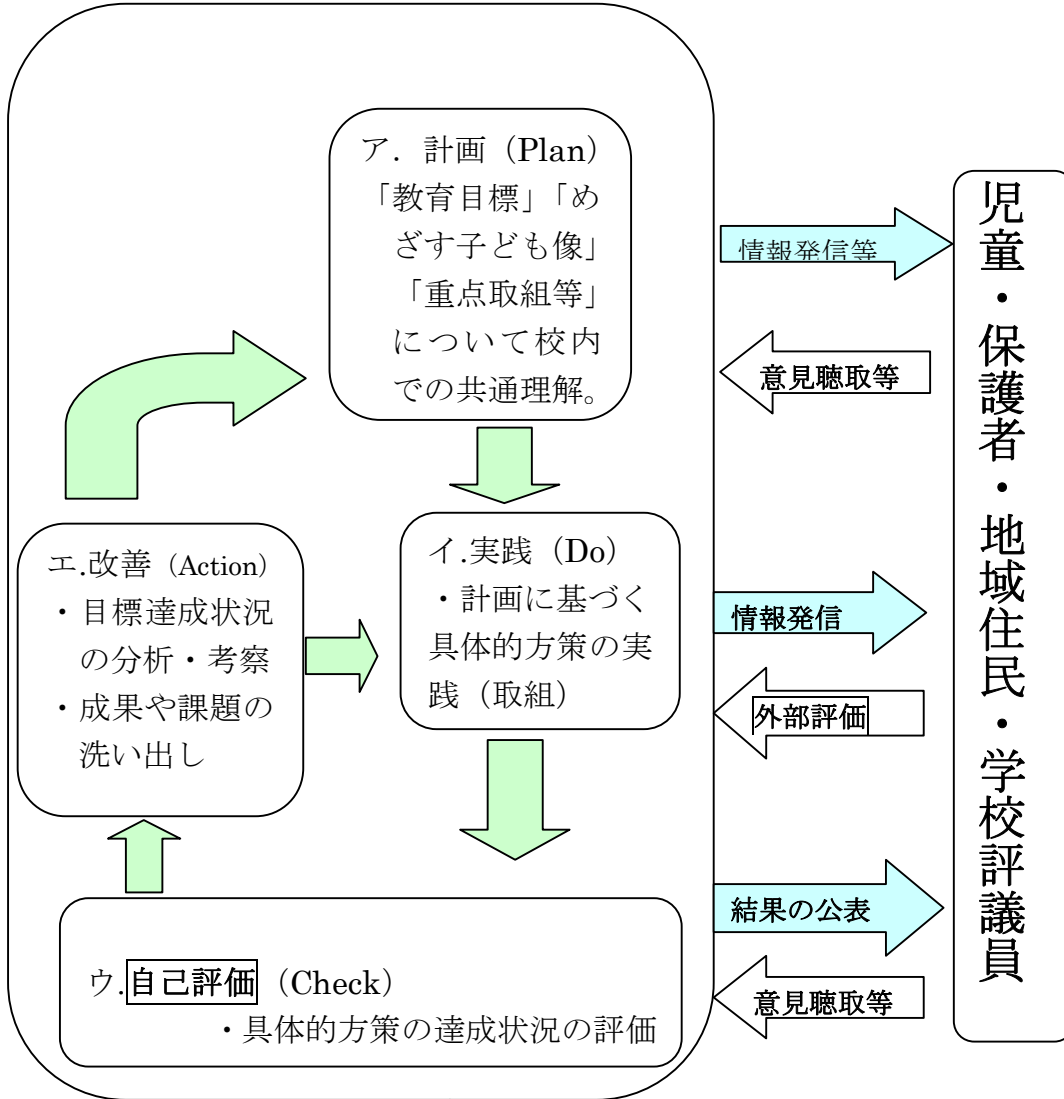
ウ 実践した具体的方策の達成状況を自己評価する。(Check)

エ 目標の達成状況を分析・考察し、成果や課題を明らかにする。(Action)

児童・保護者・地域住民の意見を学校の教育活動に反映させて、教育の質の向上を図り、よりよい学校づくりをめざしていきたい。

よりよい学校づくりをめざして

P-D-C-Aサイクルに基づいた学校評価システム



日常の教育活動及び学校運営